



葉山の春 仲問たちの

10th
Special Thanks

2020年3月25日発行
認定NPO法人葉山まちづくり協会
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1874
町立図書館2階
TEL&FAX 046-876-0421
e-mail: office@hayama-npo.or.jp
葉山まちづくり協会 検索

ご愛読ありがとうございました！

いつかまたお会いしましょう！

1

葉山まちづくり協会

葉山の春

海に山に、今年も春が来た！

バックナンバーから葉山の春の風景をご紹介します！



32号より。春になると葉山の海に現れるオオミズナギドリ



4号より。南郷二子山周辺の桜

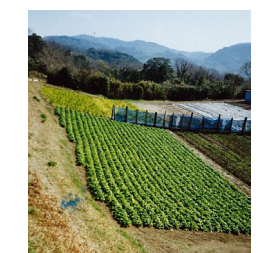


18号より。湘南国際村のつつじ

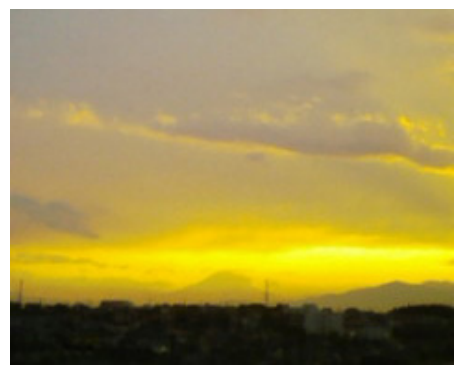


葉山まちづくり展、名前も中身もリニューアル！

今年は5月30、31日（土、日）の2日間！
葉山町福祉文化会館での開催予定です。ますます楽しくなったまちづくり展に、ぜひ遊びに来てください。



4号より。峯山頂上付近の花畑



7号より。実教寺周辺。富士が黄金色に染まる春の夕暮れ

終刊のご挨拶

皆様にならうご愛読いただいた「葉山の仲間たち」を今回をもって終了いたします。突然このようなお知らせをすることを深く深くお詫びいたします。2010年9月の発行以来、約10年間、さまざまな町の情報を発信してまいりましたが、このたびその他の協会事業とともに、時代に即応すべく、見直しを図ることとなりました。「より早く、より分かりやすく、より役立つ」情報提供を主眼に置いた広報誌をお届けできるようまちづくり協会一丸となって努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

編集部に聞いた！ 10年間で印象に残った取材記事や仕事は？

昭和初期に建てられたお宅で何った別荘文化時代のお話は、古きよき葉山の情景にあこがれを抱くものでした。松
.....
イノシシ特集！身近にいることや知らなかった生態に驚きました。さまざまな団体の現場に伺うのも楽しみでした。高
.....
中学の部活を訪れ、ひたむきに練習にはげむ姿と、部の垣根を越えた励まし合いの輪にじ〜ん。寺
.....
ミスを見つけて夜、印刷屋に電話して機械を止めてもらったことも。印刷屋からあがつくる日はいつもドキドキでした。池
.....

10年間の激励や温かい言葉に感謝

4

葉山まちづくり協会



「葉山の仲間たち」

創刊から10年。気になる記事をプレイバック！

創刊号から37号まで「葉山の仲間たち」で取り上げた葉山のいろいろをまとめてみました。まちの変化を少しでも感じる事ができたでしょうか？

2010年11月第2号より

新桜山トンネル 開通式

9月23日、午前10時から行われた新桜山トンネルの開通式。式には逗子市長、葉山町長のほか国會議員、県議會議員、市議、町議らが参列しました。

開通式の始まる前、多くの方々がトンネルの中に入っていきます。

開通式には南郷中学校の吹奏樂部が参加し、みごとに演奏を披露してくれました。こういう公式行事に出るのは初めてだそうです。式の後、吹奏樂部のマーチに乗って、数百人の参加者が「通り初め」を行いました。演奏している脇を通り抜けて、広々とした新トンネルの中を歩きました。



南郷中学校の吹奏樂部

2012年1月第8号より

福島の子どもと遊ぶ 海の仲間たち

福島県から来た子どもたち55名（保護者2名含む）が葉山の海と山を体いっぱい楽しみました。

2011年12月29日、厳しい寒さがゆるみ青空に恵まれた日、森戸、一色の海岸と三ヶ岡山をハイキングした子どもたち。いろいろな年齢の子とボランティアを組み合わせたグループで元気に歩きました。

ふだん外遊びが制限されている子どもたちを屋外で思いきり遊ばせたい、とスタートした「ふくしまキッズ」（福島の子どもを守るうプログラム実行委員会）。その冬休み編として企画された「ふくしまキッズ冬のプログラム」横浜（ほかに北海道、愛媛）。その中の葉山での活動をNPO法人オーシャンファミリー海自然体験センターが引き受けました。オーシャンファミリーは東日本大震災のために「災害支援海の仲間たち」を立ち上げ、鳴き砂の浜の清掃活動などに取り組んできました。



思いきり遊んだ子どもたち

ところ、予想を上回る64名の応募があり、スタッフ含め総勢92名が活動を支援しました。

2013年9月第16号より

海のゆりかごアマモの再生

葉山町立一色小学校ではアマモの苗づくりに取り組んでいます。きっかけは2007年葉山の漁業関係者が海を見てアマモが減っていると気づいたことからです。それに付随し魚も減っています。葉山の海には40年前まで、今では見られない場所にもアマモ場が広がっていたようです。

葉山アマモ協議会は葉山町漁業協同組合、一色小学校、NPOスクーパミュージアム、鹿島建設（葉山水域環境実験場）から成り立っています。

アマモ場を再生保存するため、苗の育苗、移植、海底耕うん、アマモマップの作成など活動中。アマモ協議会の協力のもと、一色小学校では4年生がアマモの苗づくりを体験しています。



アマモ

子供たちは「早く大きくならないかなー」自分たちで植えつけたアマモに願いをこめ、学校プールサイドの大型水槽で育苗。翌年3月〜5月に元の葉山の海に戻します。

2017年12月第31号より

葉山ステーション 2年目の挑戦

SHOPPING PLAZA HAYAMA STATION

（以下葉山ステーションと表記）が1周年を迎えた。葉山町と葉山町商工会の協同プロジェクトが運営するこの商業施設、誕生の発端は、商工会会員の夢だったという。商工会が中心となるイベントは週に1度の鰹揚げ港朝市、年1回の「ビッグハヤマママーケット」とあるが「毎日開けるマーケットがほしい！」という声が長い間あがっていたそうなのだ。

この1年、運営側が最も腐心したのは町民の日常的なマーケットとして根付くことだったという。

「そのために大事ななのは、とにかく皆様に満足してもらえる品物を揃えることだと考えました」と商工会会長・柳新一郎さん。



——施設に関わる人々の日々の努力のかいあって、最初は観光客用の店だろうと噂していた町民たち、とくに長柄の住民から「ここができて本当によかった、便利になった」という声が聞かれるようになった。

2018年12月第34号より

葉山の山にも・・・ 亥年にイノシシのことを知ろう！

葉山町ではじめてイノシシの存在が確認されたのは2013年。当時5頭の推定生息数が100頭を越え、住宅地近くや民家の庭先、小学校の校庭から数十メートルのところでも目撃されるようになりました。

「これからは、いかにイノシシと共存していくかを考える必要があります」と



話すのは、二子山山系自然保護協議会・イノシシ被害対策会議プロジェクトの小菅さん。

「イノシシを人里に慣れさせず、生活圏を分けることが唯一の共存方法です。イノシシの好む隠れ場所はヤブや草むら。同協議会では定期的にヤブ刈りを行う活動をしています」

ヤブ刈りをした後の土地は様々なプロジェクトや団体に貸出し、田んぼや畑、子どもたちの遊び場として活用しており、こうして、イノシシにとって住みにくい場を増やすことで、イノシシが人里に下りてくるのを防いでいるそうです。

里山とは、里の暮



イノシシに掘り返された穴

らしと山の暮らしが共存する空間とも考えられます。葉山の里山を守るためにも、まずは2019年、イノシシのことを知り、対策活動に参加してみませんか。

まちの記憶 失われていく邸宅を訪ねて

気候が温暖で風光明媚な葉山が別荘地として注目されるようになったのは、明治20年代のこと。その後、横須賀線の開通をきっかけにさらに別荘が建ち始め、明治27年に「葉山御用邸」が造営されたことなどを受けて、葉山の別荘地としてのブランドが確立した。

白仁邸（旧小暮邸）も葉山に別荘が建ち始めた頃の昭和11年に建てられた。



新築当時の白仁邸（旧小暮邸）

現在お住まいの方のお父様が毎年夏になると森戸にある「かぎや旅館（海狼）」に避暑に来ていたのだが、葉山が気に入り、別荘を建てた。その別荘は、お父様が大学生の時に自分で設計したそうだったとかで、現在もその面影を残している。

現在、まちの雰囲気はだいぶんと変わってしまった、少しさびしい思いをされているそうだが、お話をうかがうだけで当時の情景が浮かび、想像をかきたてられる。

記憶のなかの葉山は全く色あせない。趣のある景色に憧れを感じながら、年々消えゆくまちの風景と歴史を残せないものかと深く考ええられた。

葉山ふるさと（古里）絵屏風

38号・NEW！葉山で、この10年に生まれたものに「葉山ふるさと絵屏風」があります。昔の暮らしを想像するに難くない温かな風景は葉山町の後世に残すべきひとつとなりました。

「葉山ふるさと絵屏風」は、葉山の中でも農耕が盛んな上山口・木古庭の昭和30年代の暮らしや風土を描いた地域の生活ものがたり絵です。当時の風景や生活の様子を多くの方にヒアリングし、2015年に誕生しました。「ふるさと絵屏風」は、そこに活きる一人ひとりの心に息づく思い出を集めて描く、ただ鑑賞するための絵ではなく、地域の人々自身がこの絵に描かれた場面を指さしながら、地域の思い出を、これから語り合いながら「みんなで育てる絵」です。

「葉山ふるさと（古里）絵屏風継承会」はこれまでにも上山口・木古庭町内会の各文化祭や、まちづくり展に出展し、多くの方に絵屏風を見ていただきました。また、町内の小学校に持ち込み、3年生を対象に「出前授業」もおこなっています。「冬に田んぼをもちやすのはなぜ？」「大根を干しているのはなぜ？」「昔の結婚式はおうちでやったの？」「オート三



子どもたちからお礼の手紙



カルタ取り大会



※絵屏風鑑賞希望の方は10名以上でお申し込みください。（鑑賞場所は原則、上山口会館。詳しくは葉山まちづくり協会ホームページ参照）

（葉山ふるさと（古里）絵屏風継承会代表・大八木俊也）